

セックスワークを理論化する：セクター別アプローチ

ロナルド・ワイツァー

ChatGPT とその下僕江口某訳

2025-11-30

Ronald Weitzer (2024), "Theorizing Sex Work: A Sectoral Approach", *Theory and Society*, 53 (5), pp. 1245–1265.

https://www.researchgate.net/publication/384115168_Theorizing_sex_work_a_sectoral_approach

概要

極端に対立したフェミニズム理論（文献には山ほどある）とは別に、セックスワーク研究の多くは理論的枠組みを欠き、単一事例の研究に依拠している。本稿は、複数の環境や売春形態を体系的に比較することで、構造的・相互行為的・経験的諸水準において理論化を前進させることが可能であると主張する。各セクターに固有の特定の構造的および相互行為的特徴が、参加者の典型的あるいは一般的な経験や意味づけのパターンと結びつきうることを示す。また実証研究を踏まえ、一部の最も重要な意味づけは、そのセクターが参加者によるリブランディング（再定義）や脱商品化にどれほど適しているか——ほとんど正当化に近い——という点を中心に回っていることを示す。逸脱の社会学では、これは規範の「中和」や「逸脱の否認」として知られている。そして、ある特定のセクターの社会的組織が、当事者によるスティグマ解消に最も有利であると論じる。

過去二十年間でセックスワークの社会学は大きく拡大した。二十世紀に発表された研究の量と質と比べれば、現在ではいくつかのタイプのセックスワーク（たとえばエロティックダンスやストリート売春）について相当量の研究が蓄積されている。しかし、ほとんど研究されていない当事者や場面については、さらなる調査が依然として必要である。こうした研究の大部分は実証研究という形を取っており、理論的問題への関心は、豊富で相互に対立するフェミニズムの視点を除けば、ほとんど払われてこなかった。¹⁾

理解しやすい実践的理由から、これまでの研究の大半は特定のタイプのセックスワークに限定され、しかも通常は単一の調査地点（特定の売春宿やストリート市場など）か、あるいは分散したサンプル（たとえばエスコートや客など）に基づいてきた。複数の研究結果を統合するスコーピングレビューは一般化可能な知見を生み出すものの、その結論は理論的というより、むしろ実証的である傾向がある。

1) 1

理論的洞察を生み出す一つの方法は、主要な変数に沿って異なるセクターを体系的に比較することである。しかし単一セクターのケーススタディが依然として主流であるため、こうした比較研究はまれである。²⁾ これらの変数には、参入経路、労働条件、仕事満足度、健康と安全へのリスク、管理者の役割、そして公的可視性が含まれる。こうした変数に沿ってセクター間を比較すると、セクター差が相当に大きいことが研究によって示されており、この多様性は「多形的パラダイム」(polymorphous paradigm)(Weitzer, 2009, 2023a)によって理論的に捉えられている。多形性は、セックスワーク研究における他の二つのパラダイム——被害化と搾取のみに焦点を当てる「抑圧パラダイム」や、無制約の主体性にのみ焦点を当てる「エンパワーメントパラダイム」——とは大きく異なる。多形性は、これらの結果を包含し、それらの中間にあるものすべても包含する。

多様な職業配置、権力関係、そして参加者の経験からなる星座を浮き彫りにしつつ、このパラダイムは次の点に注意を向ける。(1) 労働条件、収入、搾取、被害化、仕事満足度、主体性、自尊心の不均質性(性質や分布)を形づくる構造的条件、そして(2) セックスワーカー、客、管理者、当局のあいだおよびそれら相互間を特徴づける多様性である。重要なのは、「このパラダイムが、妥当な場合に経験的な一般化を妨げるものでは決してない」という点である。すなわち、「差異と共通性を同時に見いだすことができる——重要な違いを記述しつつも、中心的傾向を抽出できるのである。したがって、どのタイプのセックスワークにも、セクター内部の差異を超えて優勢となる中核的特徴が存在する」(Weitzer, 2023a:34-35)。

上で述べた諸変数のいくつかを検討することに加えて、本稿では、それぞれのセクターが、参加者の典型的または日常的な目的や経験、そして彼らが性取引への関与に付与する意味に、直接的または間接的な影響を及ぼすことを論じる。こうした違いは、現在違法とされている地域でセックスワークの非スティグマ化や非犯罪化を求めて闘うアクティビストにとって、あるいは売春のあらゆる形態の廃絶を求める反対者にとっては、重要でないかもしれない。しかし社会的には極めて重要である。さまざまなタイプに共通する普遍的側面——客を引きつけること、リスクを最小化すること、スティグマに対処すること、違法な地域では当局を避けること——はあるにしても、異なる形態の商業的セックスを一括して扱うことは重大な歪曲である。本稿は売春に焦点を当て、他のタイプのセックスワークは扱わない。

まず売春を古典的かつ道具主義的に粹づける記述から始め、その後にセクター間の差異の重要性を示す実証的証拠のレビューを行う。分析はさらに進み、各セクターが、スティグマ化され、しばしば違法とされる行為への関与について、当事者の経験や、脱商品化あるいは正当化(正常化)する能力をいかに形づくりうるかを理論的に検討する。逸脱の社会学には長い伝統があり、逸脱行為者が自らの行為を正当化し、罪悪感を無効化し、規範の正統性を受け入れながらそれを破るという認知的不協和をどのように解消するのか、多様な方法を探究してきた。Sykes と Matza(1957)は、逸脱行為者が規範を一時的に停止し、自らの行動を合理化するために用いる五つの「中和技法」を提示した。他の研究者たちも、人びとが「逸脱の否認」に関与する追加的な方法を指摘している(例: Durkin & Bucklin, 2000; Kaptein & van Helvoort, 2019)。売春にもいくつかのタイプがあり、

2) 2

その中には他のタイプよりも合理化しやすいものが存在することが、これから明らかになる。

1 古典的な枠づけ：混同

過去の著名な学者たちの中には、売春について大雑把な主張を行い、この職業についての深刻な無知を露呈した者もいた。たとえば 1900 年、著名な社会学者ゲオルク・ジンメルは、売春を金銭の非人格的交換と同一視している。

「貨幣取引だけが、売春に見られるような、完全に一時的で取るに足らない関係の性格に対応している。……売春においては、男女関係はきわめて特定のセックスという行為に限定されている。……われわれは貨幣そのものの本性のうちに、売春の本質の一端を経験するのである。その使用に対する無関心、どの個人とも結びつかないがゆえにどの個人にも執着しないこと、情緒的関係を排除する単なる手段として貨幣に内在する客観性——これらすべてが貨幣と売春とのあいだに不吉な類似性を生み出す。……あらゆる人間関係のなかで、売春はおそらく互いを単なる手段へと貶めるもっとも際立った事例である……」(Simmel, 1900:378-379)

支払いはその関係が無関心なもの、取るに足らないものにしつつ、「不吉」で「墮落的」なものとし、しかも「いかなる情緒的關係も」欠いたものにする。

それから四十年後、キングズリー・デイヴィスは、売春を結婚と対比することで、この功利主義的観点を踏襲した。

「純粋な売春は、乱交的であり、非人格的である。売春者の性的反応は相手の人格にかかっているのではなく、報酬にかかっている。同様に客の反応も、売春者の特定の人格に依存しているのではなく、身体的満足に依存している。双方にとってその関係は、私的な目的への単なる手段であり、個人的結びつきというより契約的な結びつきである。……（結婚では）一定の永続性と個人的感情という条件によって結びつきが生じる傾向があり、その営みには長期的・密接・共感的な関係が必要とされる。

これに対して、売春は、販売者が値段さえ合えば誰でも買い手として受け入れるというものであり、必然的にこれとは正反対の種類のエロティックな関係を示している。そこでは雇用、乱交、情緒的無関心という要素によって特徴づけられる」(Davis, 1937:749)

この伝統的な描写は、フリードリヒ・エンゲルス (1909:86) が結婚を「社会的に承認された売春」とみなした見解とは鋭く対照をなす。すなわち、既婚女性は「自らの身体を商品として時間単位で金銭と引き換えに提供するのではなく、一度きりで奴隷状態に売り渡す」という点でしか高級娼婦と区別されないのである。ここでは、売春のほうが結婚に内在する「奴隷制」よりもましであるかのように見えるが、エンゲルスの搾取的で疎外的な賃労働批判を踏まえれば、その差はごくわずかである。ジンメルやデイヴィスと同様、彼も売春を完全に取引的かつ非人格的なものとして定義している。

一部の現代の研究者もまた、還元主義的・道具主義的な論理の罠にはまりこんでいる。「売春者

は、ゲーム理論における純粋な功利主義者のように振る舞う傾向がある。双方にとって純粋に利己的な交換であるため、焦点は金銭交渉と労働回避に置かれる。……純粋に利己的な性的快楽を求める客でさえ、売春者との相互行為を功利主義的と感じるあまり、感覚的快楽が満足のかない水準にまで低下することがしばしばある」(Collins, 2005:229)。

これらの著者たちは、当時すでに複数の形態の売春が存在していたにもかかわらず、主張の中で「売春者」「売春」という一般的で未分化の用語を用いていることに注目すべきである。³⁾ しかし、最初に区別に言及する分析者でさえ、最終的にはそれを消し去ってしまうことがある。たとえば「売春宿での売春は他の種類の売春となんら変わらない。内容は同じであり、性的サービスが流れ作業で取引されているのだ」という奇妙な主張がそれである(Høigård & Finstad, 1986:177)。この主張は売春宿ではなく街娼についての本に登場するのだが、最も重大な誤謬は、著者たちがセクター間の「違いはない」と断言している点と、労働者と客との関係を「流れ作業」のかたちとして理解している点である。こうした書き手たちは、セックスワークが職人的労働——創造的で、個別化されたサービス——に近づきうる可能性や、当事者間に情緒的親密さが生じうる可能性を無視している。

性的な商取引が必然的に功利主義的あるいは機械的であるという考え方は、歴史的・現代的研究と衝突する。歴史的には、高級娼婦や売春宿の労働者は、客に友情、娯楽、そして情緒的親密さを提供してきた。また、取引の要素は、過去にある社会学者が戯画的に描いたように、そして今日の「フックアップ」関係にも見られるように、一般的なデートにおいても存在しうることは指摘に値する。

「一方の人物が、情緒的関与とそれが暗に含むコミットメントを装って、スリルのために他方を搾取することがある。女性が搾取する場合、それはたいてい贈り物や高価な娯楽のためであり——典型的な『金目当て』のパターンである。男性の搾取者は通常、女性の身体からスリルを求める。スリルには金がかかる、しかも多くの場合それは男性の金であるという事実が、関係に強い疑念と敵意の要素を持ち込むことがしばしばある」(Waller, 1937:728)。

性的な商取引が必然的に功利主義的あるいは機械的であるという考え方は、歴史的・現代的研究と衝突する。歴史的には、高級娼婦や売春宿の労働者は、客に友情、娯楽、そして情緒的親密さを提供してきた。また、取引の要素は、過去にある社会学者が戯画的に描いたように、そして今日の「フックアップ」関係にも見られるように、一般的なデートにおいても存在しうることは指摘に値する。

「一方の人物が、情緒的関与とそれが暗に含むコミットメントを装って、スリルのために他方を搾取することがある。女性が搾取する場合、それはたいてい贈り物や高価な娯楽のためであり——典型的な『金目当て』のパターンである。男性の搾取者は通常、女性の身体からスリルを求める。スリルには金がかかる、しかも多くの場合それは男性の金であるという事実が、関係に強い疑念と敵意の要素を持ち込むことがしばしばある」(Waller, 1937:728)。

3) 3

道具的な利害が一般的なデート関係を色づけうるのであれば、その逆もまた真である。すなわち、(売春のように) 経済的交換に基づく関係が、情緒的な結果と本質的に相容れないわけではない。商品やサービスを交換するあいだにも、当事者は重要な情緒的挑戦や利益を経験しうる。Zelizer(2005) の論じるところでは、取引的側面が関係を必ずしも墮落させるわけではなく、経済的利害と情緒性は、互いに分離された「敵対的世界」ではなく、両立しうるのである。本稿ではこの洞察に基づき、情緒的親密さの可能性が売春のセクターごとに異なり、それが当事者の行動を脱商品化する能力と相関していることを示す。その前に、いくつかの重要な構造的・行動的パターンを概説する。

2 ストリート vs インドア

古典的な一枚岩の枠づけから離れて、現代の研究者の大半は売春領域の多様性を認めている。簡単な一覧から成る類型を提示する者もいる (例: Harcourt & Donovan, 2005)。より広範な比較分析によれば、売春のタイプは、収入、リスク、仕事満足度、健康行動、公的可視性、客の嗜好、さらには管理者やその他の第三者との関係といった、極めて広い領域の結果に重大な影響を及ぼすことが示されるであろう (例: Sanders et al., 2018; Weitzer, 2023a)。表 1 は、現代の五つのセクターにおけるいくつかの変数を示し、請求価格、第三者の関与、被害リスク、公的可視性、コミュニティへの影響がどのように異なるかを明らかにしている。

表 1 セクター別の主要特徴 (Weitzer 2024)

セクター	場所	価格帯	第三者の関与	虐待リスク	公的可視性／地域社会への影響
ストリート	屋外での接触；車内・路地・公園・ホテルなどでのセックス	低い	無～高い	高い	公的可視性：高い； 地域社会への影響：通常大きく不利
売春宿／マッサージ店	売春宿，マッサージパーラー	高～低	中程度	低い	公的可視性：低い； 影響：目立たなければほぼ無い
ウィンドウ売春	風俗地区のウィンドウルーム	低い	低～中程度	低い	公的可視性：高い； 影響：数と場所による
エスコート	私的空間，ホテル	高～中程度	無（自営の場合）／中程度（エージェンシー所属の場合）	中程度	公的可視性：なし； 地域社会への影響：なし
バー売春	バーでの接触；店内または店外でのセックス	中～低	無～中程度	低い	公的可視性：中程度； 影響：数と場所による

どのセクターで働くか、あるいは利用するかは、労働条件、仕事満足度、健康リスク、被害化、当局との接触可能性とも相関している。これらの要因は、表を上から下へ、すなわちストリート売春からバー売春へと移行するにつれて、ポジティブな方向に傾く傾向がある。各セクター内には一定の自然な変動があるものの、セクター間の差異は実証研究で十分に確認されている。本節の残りでは、複数セクターのより詳細な比較——当事者の日常的活動や経験に付与される意味の水準での比較——に入る前段階として、ストリート売春と屋内売春のあいだの一般的な相違点を概説する。

多くのストリート型販売者は、見知らぬ土地で家出した若者であり、資源もなく、薬物売買・窃盗・取引型セックスといった何らかの犯罪行為に手を染める以外に選択肢がほとんどない (HHS, 2009)。ストリートにいる若者や大人の一部は、劣悪な労働条件のもとで、いわゆる「サバイバル・セックス」に従事し、極度の必要に迫られて行動している。多くは犯罪多発地域で客引きをし、ポン引きから搾取され、依存性薬物を使用し、支援サービスとのつながりが途絶え、見知らぬ人々、地域住民、そして客からの暴力に対して脆弱である。2000 年から 2014 年にかけて発表されたストリートベースの研究をスコープレビューしたところ、暴力が職業上の危険であり、薬物依存、および身体的・精神的健康問題が蔓延していることが明らかになった (Love, 2015; cf. Dewey, 2023; Scott & Dedel, 2006)。一方で、薬物や略奪的なポン引きと無縁のストリート販売者は比較的良好な状態にあるものの、それでもさまざまな職業上のリスクに直面している。

文献レビュー (Weitzer, 2023a) によれば、強制されていない屋内型の労働者は、ストリート販売者と比べて、子ども時代の虐待の経歴を持つ可能性はるかに低く、未成年でセックスワークに入る可能性も低く、危険行動に従事する可能性も低く、いかなる形の被害化を経験する可能性も低い。これらの比較研究ではランダムサンプリングは不可能であったが、ストリートと屋内の間の大きな差異のパターンは一貫している。

ここには二つの注意点がある。第一に、屋内労働者の福祉は、第三者が関与しているか、どのように関与しているか（搾取的か協働的か）、提供者が単独で働いているか集団で働いているか、そして市民権の有無（一般的には自国生まれの者のほうが移民よりも状況が良い）といった要因に部分的に依存する。また、先進国における屋内労働は、通常、発展途上国よりも良好な条件下で行われている。

第二に、一部の屋内営業は労働者に非常に友好的である（例：Brents et al., 2010; Harcourt, 2010; Staiger, 2022; Weitzer, 2012）が、そうでないものも少なくない。後者には、設備が粗末であったり、顧客のスクリーニングやその他の安全対策が欠如していたり、安全なセックスの実践が緩かったり、何らかの形で労働者を虐待するマッサージ店や売春宿が含まれる（例：Chin & Takahashi, 2023）。

3 地域コミュニティへの影響

ストリートと屋内の市場は、当事者の福祉への影響だけでなく、地域社会への影響によっても区別できる。ストリート売春者は、多くの場合、住民の反対が弱く、地域の一部の商店が活動の恩恵を受けている周縁的地域で働いている。より社会的に組織化された地域では住民の抵抗が強く、苦

情は多岐にわたる——公共の場での薬物使用、公然わいせつ、露出度の高い服装、口論、使用済み注射器やコンドームの放置、住民への嫌がらせ、そして不動産価値や地域の評判への悪影響である (Kingston, 2014; O'Neill & Campbell, 2006)。⁴⁾

苦情の中心は道徳ではなく、公序の維持である。ストリート売春者が地域住民に客引きをしたり、車道に出て運転者に呼びかけたり、男性歩行者を取り囲んだり、ついて歩いたり、公的な場所で薬物を使用したり野外でセックスをしたりすることは珍しくない (Cohen, 1980; Scott & Dedel, 2006)。もう一つの火種は、地域外から来た男性たちの行動であり、彼らは車でこの地域を通り抜け、女性住民に声をかけたり、クラクションを鳴らす、罵声を浴びせる、脅す、物を投げつけるといったマイクロアグレッションでストリートワーカーを攻撃したりする (Comack & Seshia, 2010)。

屋内営業は通常、外部不経済がほとんどない。看板が不明瞭または存在しないことが多く、取引は公衆から見えないため、住民や商店にとって問題になることはほとんどない。売春宿が住宅街に位置している場合、近隣住民に気づかれたり迷惑をかけたりしないよう、客数を制限することがあるし、アパートで独立して営業するセックスワーカーも同様である。例外は、多数の来訪者が訪れ、その一部がかなり無秩序な振る舞いをする屋内型の歓楽街である。たとえばアムステルダムやブリュッセルのウィンドウ型売春区域は、近隣住民との関係が問題を抱えてきた (Weitzer, 2012, 2014)。

4 世論

上で述べた屋内とストリートの相違は、世論にも反映されている。多くの世論調査は単に「売春」について質問するが、いくつかはそれを区別して尋ねている。これらの調査によれば、一般市民は屋内型のほうをより容認しており、なかでも最も目立たない形態であるエスコートへの許容度が高い。1984 年のカナダの世論調査では、ストリート売春を容認したのはわずか 11%であったのに対し、売春宿は 38%、エスコート事務所は 43%、独立エスコートは 45%であった (Peat, Marwick, & Partners, 1984)。2011 年には、カナダ人の 58%がエスコート事務所の合法化を、50%がエロティックマッサージ店の合法化を支持したが、ストリート売春を認めるべきだと考えたのは三分の一にとどまった。⁵⁾

別の調査では、60%のカナダ人が「売春者が屋内や売春宿で働けるようにする」ことに賛成しており、その理由として「そのほうが安全になり、ストリートで働くことがなくなるから」と述べている。⁶⁾ また 2014 年には、「子どもがいるかもしれない公共の場で性を売ること」は 89%が違法とすべきだと答えたのに対し、売春宿を違法とすべきだと考えたのは 41%にすぎなかった。⁷⁾

この背後にある理由は、目に見える悪徳から人びとを守ろうとするものであり、屋内での使用が許可されている場合でも屋外での販売や使用が禁止される麻薬合法化のロジックと同じである。

4) 4

5) 5

6) 6

7) 7

最近のイギリスの調査は、世論におけるセクター区別の重要性を改めて確認している。2024 年の世論調査では、以下の事項について「合法とすべきか」が問われた。ストリート売春に賛成したのはわずか 15%であったのに対し、労働者が性的サービスを提供する事業（売春宿、マッサージ店、エスコート事務所など）を運営することには、その 2 倍の支持（29%）が集まった。そして、独立エスコートは最も高い支持（57%）を得た。⁸⁾ エスコート事務所に雇われるのではなく、「独立した」エスコートであるという点が、後者より前者の支持率が高い理由を説明している可能性が高い。独立性は、管理者やその他の第三者からの主体性・自律性を意味するからである。⁹⁾ また重要であり——そして調査結果に影響した可能性がある——のは、イングランド、スコットランド、ウェールズにおいて現在合法なのは、独立エスコートのみであるという事実である。

セックスワーカー自身もまた、階層的な区別を引く。彼女／彼らは、自分の働くセクターと他の「汚れた」階層で行われている仕事とを厳しく、そして不公平なかたちで比較し、自分が選んだセクターで働くことの実際または想像上の利点を挙げる傾向がある (Toubiana & Ruebottom, 2022)。¹⁰⁾ こうした比較は、自らの仕事につきまとうスティグマを希釈し、自己の地位認識と自己イメージを高める助けとなる。ストリートでの販売は屋内で働く者から見下されがちであり、その逆もまた然りである。独立エスコートは自律性を重視し、それを、店のルールに縛られ、収入を事業者と分配しなければならないバーや売春宿で働くことよりも好ましいものとして位置づける。これとは対照的に、エロティックバーで働く者の多くは、「パーティ的」雰囲気のないセクターでは得られない刺激性と豊かな相互行為が自分たちの仕事にはあると考えている。

5 情緒的親密さとスティグマ解消の前提条件

ストリート売春と屋内売春がどのように異なるのか、その主な点を確認したうえで、ここでは、それらが参加者の典型的あるいは日常的な活動・経験・意味づけをどのように形づくりうるかを概説する。¹¹⁾ ひとつの接触が、クライアントおよび／または提供者にとって、認知的あるいは情緒的に報われるものとして経験される可能性はさまざまである。以下では、ストリート売春、ウィンドウ売春、マッサージ店、売春宿、エスコート、エロティックバーといった場における社会組織と当事者の参与に関連する、いくつかの重要な経験的結果について理論化する。関与する意味の可能性について言えば、どのセクターが、当事者の逸脱行動を再定義しスティグマを解消する能力をどの程度形成するのかが、大きく異なることが明らかになる。

5.1 ストリート売春

研究によれば、ストリート型のセックスワークは、功利的・金銭目的的な関心と結びつきやすい。接触はセックスを中心に展開する。ストリート販売者の中には客を「デート」と呼ぶ者もいる

8) 8

9) 9

10) 10

11) 11

が、その関係は典型的にデートの要素を欠いている。すなわち、それは人目を避けたものであり、会話もほとんどなく、短時間で終わる。¹²⁾ これは、「古典的」枠組に特徴的な非人格的・功利的関係が、屋外の取引に最もよく当てはまることを意味する。参加者はストリートでの接触の典型的な短さに拘束されるだけでなく、より個別化された関係に興味を示さない傾向がある。さらに、教育機会が限られていることも一因となって、ストリート販売者は客と意味のある絆を築くために必要な技能を欠きがちである (Bernstein, 2007)。そのため、彼女／彼らは、多くの屋内ワーカーの客が求める「ガールフレンド体験」(GFE)を提供することに抵抗を示す。なかには、会話をしたがったり、情緒的レベルでつながろうとしたりする客に苛立ちを覚える者もあり、そうした行為を「ハネムーニング」と嘲ることさえある。

これらの点について少し詳しく述べておきたい。広く知られてはいないが、屋内提供者とストリート提供者は、提供するサービスの範囲や客との相互行為において異なっており、客の側もまた、両市場で求める経験のタイプが異なる傾向にある。短時間であることに加えて、ストリートの客との関係は情緒的に距離があり、功利的である傾向が強い。スコットランドにおけるストリート売春の大規模研究では、

「女性たちは客との接触を非人格化していた。……個々の客にはなんら特別な意味はなく、重要なのはセックス行為とそこから得られる金だけであるように見えた。……客がどれほど魅力的な外見や個人的特性を持っていようとも、それは問題ではなかった。……大半の〔ストリート〕売春者は、できるかぎり非人格的な仕方で見ているようである」(McKeganey & Barnard, 1996:87, 88)。

常連客でさえ非人格化されていた。他地域のストリートワーカーの中には、一部の常連客と関係を築く者もいるが (Hail-Jares & Oselin, 2022)、それは例外的であるように見える。たとえば最近の研究では、ストリート販売者は常連客を「要求が多すぎる」とみなし、したがって新規客にも常連客にも「取引に感情を持ち込まない」という格率で行動していたと報告されている (Dewey, 2023:243)。ストリートワーカーは、悪質な客の見極め、匿名性の維持、落ち着いた客を安心させること、境界の交渉といった情緒労働を行うことはあるが、顧客が何らかの意味で「特別」でないかぎり、情緒的な絆を築くことはない。

5.2 ウィンドウ売春

ウィンドウ売春は世界的にみてもまれであり、主にベルギー、オランダ、韓国に限られている。ウィンドウルームは明確な歓楽街に位置し、その数は数室から 100 室以上にまで及ぶ (Weitzer, 2012, 2014)。各ルームには 1～3 名のワーカーが入り、日単位または週単位で部屋を借りる。ワーカーは自室の外で客引きをすることを禁じられており、窓際に立ったり座ったりして、男性通行人に手を振ったり、合図を送ったり、声をかけたりする。

ヨーロッパでは、15～20 分あたりの標準料金は 50～75 ユーロであり、客は追加料金を支払えば

12) 12

時間を延長できる。しかし多くの接触は短時間で終わる。典型的な手順は、見込み客がワーカーとドア越しに会話し、そのうえで部屋に入るかどうかを決めるというものである。いったん室内に入ると、ウィンドウワーカーはカーテンを閉め、支払いを受け取り、定められた時間の性行為が始まる (Aalbers, 2005; Weitzer, 2012, 2014)。

これらのやり取りは短時間で終わり、性的行為に限定されることが多いため、情緒的な結びつきが生まれる可能性は低い。屋内で安全かつ快適な環境にあるとはいえ、接触が典型的に短く、しかも（少なくともアムステルダム、アントワープ、ベルリン、ブリュッセル、ジュネーブでは）顧客層の大半が常連ではなく観光客であることから、こうした相互行為は、労働者が窓を通して公的に可視化されている点を含め、典型的なストリート型の相互行為といくつかの特徴を共有している。より長い滞在や、常連客を相手にする場合には、コミュニケーションや情緒的共有が進み、標準的なパターンから外れることもある。しかし一般的には、ウィンドウ売春は情緒的結びつきに適した環境ではない。

5.3 マッサージ店と売春宿

売春宿とマッサージ店は、提供されるサービスにおいて大きく重なり合っている。売春宿は典型的に「フルサービス」を提供するが、マッサージ店もそれを提供する場合があります、あるいは手による刺激に限定することもある。しかし、どちらのタイプにも内部的な変動が非常に大きいため、利用可能な身体サービスだけで両者を区別することはできない。もっとも、このあと見るように、売春宿の一部には、マッサージ業態には存在しない追加的な魅力を備えたタイプがある。

売春宿やマッサージ店において、参加者のあいだに情緒的な結びつきが形成されにくいのは、店外での有償の外出を労働者に禁じるルールがある場合である。相互行為は、課された時間制限によって枠づけられる。情緒的なつながりが生じることはありうるが、とくに常連客とのあいだでそうなることはあるものの、深い関係の前提条件は通常は限られている。そのため、マッサージ店と大多数の売春宿では、労働者は「非人格的かつ非情緒的」なかたちで業務にあたる傾向があり、とりわけ肉体的快楽のみを求める功利的な客に対してそうである (Bryant & Palmer, 1975:238; Perkins & Lovejoy, 2007; Velarde & Warlick, 1973)。

この点で見れば、マッサージ店よりも売春宿のほうが変動幅が大きい。ここでは売春宿を三種類に区別する：クラシック型、スタンダード型、そして初歩的（ルーディメンタリー）型である。クラシック型売春宿とは、性的サービスに加えて、娯楽や社交を提供する施設である。その設計や設備は祝祭的な雰囲気有助長し、来訪者が食事や飲酒、ショー鑑賞、ダンス、ギャンブル、またはほかのゲームを楽しんだ後で寝室に移りセックスを行うというスタイルを可能にしている。クラシック型モデルは、中世の「スチュー」（エロティックな浴場）、19世紀の上流階級向け「パーラーハウス」、そして下層向けの「ボーディ・ハウス」や「ディスオーダー・ハウス」に代表される——それらでは音楽、ギャンブル、飲酒、歌唱、および／またはダンスによって場が盛り上げられた。

今日のクラシック型売春宿は、上品な装飾のラウンジを備え、サウナ、プール、飲食物、ポルノ動画、ポールダンス、そして客と提供者が会話やいちゃつきを楽しむための席などのアメニティを備えていることがある (Bretns et al., 2010:118–121; Ślęzak, 2019; Staiger, 2022)。セックス前の会

話はかなり長くなることがあり、性行為に入る前に情緒的な“ケミストリー”を築く機会を提供する。以下は、ドイツのクラシック型売春宿についての記述である。

バーのような雰囲気 sauna 設備が組み合わさっており、客はセックスワーカーやほかの客と交流したり、スパ施設を利用したり、おいしい食事を楽しんだり、凝ったドリンクを味わったりできた。この構造によって、客は長時間滞在することが可能になった。……クラブは明確な利点をもっていた。というのも、世界各地から来た若く魅力的な女性たち多数と交流し、いちゃつき、リラックスした雰囲気のなかで気軽に知り合う機会を客に提供していたからである。……多様な娯楽の特徴を備えたこのクラブは、客がセックスワーカーと性的購入を超えて、そしてときにはクラブの範囲を超えて関係を築くことを可能にしていた (Staiger, 2022:108–109, 210)。

別の国にあるある売春宿のウェブサイトは、その豪華な提供内容を次のように説明している。

「当施設では、館内レストランでぜいたくな食事を楽しむことができます。ひょっとすると、セクシーなスーパースターの一人とご一緒に。……の泡マッサージは、モダンでシックな個室で行われる贅沢なひとときで、快適なベッド、ジャグジースパ、まばゆいレーザーライトショーが完備されています。それに加えて、壮大な音楽映像が雰囲気とムードを演出します。天井の鏡がこれから始まるすべてに、さらなるきらめきを与えてくれます。……どのセクシーなスーパーモデルがあなたを虜にするかを決める前に、バーや豪華なラウンジエリアでゆっくりくつろいでください。当施設ではライブショーなどのエンターテインメントも提供しています。」

ラウンジでの交流や、何らかのゲームへの参加は、売春宿の労働者にとって、客の性格、衛生状態、酩酊の程度、気前の良さを見極める機会となり、どの客と部屋に行くかを決める際に重要となりうる。寝室での接触の前後を問わず、提供者は情緒労働に従事することがある——客がくつろげるようにすること、客の生活に関心を示すこと、身体的境界を設定することなどである (Ślęzak, 2019; Staiger, 2022)。

今日、クラシック型売春宿は世界的に最もまれである。大半の売春宿は、社交や娯楽／レクリエーションの機会を提供せず、性的サービスのみを中心に組織されており、その点でマッサージ店とよく似ている。そして、ここには二つのタイプがある。標準的 (スタンダード) 売春宿は、客が座って飲むことのできるバーや閲覧室といった、限定的な余暇の機会を提供することはあるが、それ以上の活動や娯楽は存在しない。内装が洒落ており、部屋が現代的で清潔に整えられている場合もあり、料金も高級なクラシック型施設と同程度となることがある。しかし、活動は閲覧室における「男性のまなざし」と寝室での身体的接触に限定されている。

第三のタイプは、初歩的 (ルーディメンタリー) 売春宿である。これは、ごく簡素で通常は安価な施設で、客が整列したワーカーを見て相手を選ぶような形式をとる——たとえばネバダ州の農村部にある小規模な売春宿が典型である (Brents et al., 2010)。他の二つのタイプと異なり、初歩的売春宿には飲酒や眺望といった機会すら存在しない。中心となるのは性行為である。利用できる性的

サービスは他の二タイプと類似することがあるものの、設備は質素で、内装も基本的であり、情緒的な結びつきが生まれる可能性は低い。

5.4 エスコート

エスコートは、提供者の自宅で行う「インコール」か、客の自宅やホテルに出向く「アウトコール」のいずれかを含む。現在では、多くのエスコートがオンラインで宣伝し、予約前に見込み客をスクリーニングしている (Koken & Bimbi, 2023)。

エスコートとのデートでは、ほとんどの売春宿よりも、ましてストリートでのわずかな時間よりも、会話や親密さに費やせる時間がはるかに長い。エスコートの最低予約時間は通常 1 時間または 90 分であり、接触がそれより長く続くことも珍しくない。¹³⁾ エスコートは当事者によって「デート」とみなされることがあり、長い会話や情緒的共有の機会を提供する。研究によれば、世界中のエスコートの大多数が、「ガールフレンド体験」(GFE) あるいはそれに相当するもの（ロマンス、「深い親密さ」）をレパトリーの一部として宣伝している (Bernstein, 2007; Carbonero & Garrido, 2018; Koken & Bimbi, 2023; Milrod & Weitzer, 2012)。ウェブページに GFE を記載する者、とくに「本物の (authentic)」「誘惑 (seduction)」「ロマンス」といった語を用いる者は、そうした宣伝をしない者より高い料金を設定している (Nelson et al., 2020)。

エスコートやその所属エージェンシーは、こうした関係において多くの客がセックス以上のものを求めていることを理解しており、よりホリスティックな経験を提供している。そのことは、あるエージェンシーの広告におけるエスコートの描写——彼女たちの「セクシーで、エロティックで、知的で、上品で、面白く、優雅で、楽しませ上手で、冒険好きな人格」——にも表れている。別のエージェンシーのウェブサイトは、従業員をストリート売春者と厳密に区別している。

「目の肥えた客は……ディナーやイベントに連れていくために、ストリートで売春者を拾うことなどしない。……〔当社の〕エスコート女性たちは、意味のある、思いやりのある、そして慎重な深い出会いを提供することができる。彼女たちはクライアントと“本物の”、そして長続きする関係を育てることさえある。彼女たちは礼儀正しく、非常に知的で、多くの文化的関心や情熱をもっている。……世界のどこにしようと、予約すべきは常にプロのコールガールである。ストリートワーカーにあなたと時間を過ごすための金を払うべきではない。それはよくても満足のいかない経験に終わるだろう。……〔当社のエスコートたち〕は、あなたのこれまでの関係で失われていた炎を再び灯すことが本当にできる。」

「デート」的側面を象徴し、それを強化するものとして、エスコートは（エロティックバーを除く）他の売春セクターの提供者よりも、客から贈り物を受け取る傾向が強い。贈り物は取引的側面を弱める。というのも、この場合、贈与者は見返りとして物質的な何かを期待しているわけではなく、むしろそれによって関係を深めたいと望んでいるにすぎないからである。そして実際に、贈り物は当事者間の情緒的親密さの高まりと相関しているという証拠が存在する (Gutiérrez Garza,

13) 13

2022)。

情緒的な結びつきは、エスコートの客にとって最優先事項である。彼らは、親密さを提供する接触や、提供者が友好的で、愛情深く、注意深く、時間に寛容で、コミュニケーション能力に優れ、抱きしめやキス、マッサージに応じてくれることを重視する。こうした欲求は、イギリスの 2,661 名のエスコートに対する 5,000 件以上のオンライン客レビューを分析した研究で広く確認されており、それらの書き込みは、身体的特徴や性的パフォーマンスよりも、希求される情緒的な GFE やワーカーの人格に焦点を当てていた (Earle & Sharp, 2007)。

これは *The Erotic Review* ウェブサイトから抽出された 567 名の客を対象とする調査でも裏づけられている。回答者が「もっとも魅力的な特徴」をリストから選ぶよう求められたところ、84%が「幸福で陽気な人格」、78%が「美しく健康的な外見」、63%が「ロマンチックでクライアントに優しいこと」、37%が「知的で分析的な問題解決者であること」、そして 72%が「彼女たちは売春者ではなくガールフレンドのように振る舞う」と答えている。別の質問では、相当数の回答者が、こうした特性こそが他のタイプのセックスワーカーではなくエスコートを選好する理由だと述べていた (Milrod & Monto, 2012:804–805)。

同じ調査では、回答者の 5 人中 4 人が、エスコートが「ビジネスライク」で「金銭に焦点を当てている」こと、あるいは「客に対して情緒的に冷淡である」ことを嫌うと答えていた。*The Erotic Review* で客がエスコートを評価する際に使える評価項目のひとつに「サービスであることを忘れた (I Forgot It Was a Service)」というものがある。この種の“忘却”は、GFE が接触を脱商品化する助けとなりうることを反映している。多くのエスコート利用者は、肉体行為を「セックスする」ではなく「愛し合う (making love)」と表現することもある (Earle & Sharp, 2007)。したがって、「提供者に恋をしたり、情緒的に愛着を抱いたことがあるか」という質問に 41%が肯定的に答えたとしても不思議ではなく、むしろ「元エスコートと結婚する意思があるか」との問いに 81%がイエスと答えたことのほうが驚きかもしれない (Milrod & Monto, 2012; cf. Milrod & Weitzer, 2012)。こうした男性たちにとって、非人格的で功利的なセックスは「悪いセックス」と定義されるのである。

5.5 バー売春

ストリップクラブはステージ上のパフォーマンスや、テーブルダンス／ラップダンスを提供することはあっても、通常は売春を提供していない。本稿で扱うエロティックバーはストリップクラブではない。

世界中で、セックスワーカーはバーで密かに客引きを行っている。彼女／彼らは他の客と目を合わせ、通常のナンパに応じる人物を装う。バーによっては、セックスワーカーが店内にいることを承知の上で認めているところもあり、彼女／彼らが客を引き寄せるためである。しかし、そうしたワーカーを店が雇用したり監督したりすることはない。他方で、別の場所では、セックスワーカーが正式な規則に従う従業員であり、マネージャーが取引に関与し、収入の一部を受け取ることもある。

バーはほかにもさまざまな点で異なる——セックスワーカーが店内に居住しているかどうか、日常的な実践（たとえばダンスや客との飲酒）、店内での性行為を認めるか外部のみか、労働者間の

相互行為の性質（協働的、競争的、無関心的）、労働者と客との関係、そして客どうしの関係などである。私は、バー・セクターが、参加者に売春への関与を否認するためのツールキットを独自に提供していると主張する。

以下の描写は主に、中国、日本、東南アジアにおけるホステス／ホスト、ゴーゴー、ビアバーに関する文献に基づいている（Allison, 1994; Ferguson, 2014; Hoang, 2015; Hoefinger, 2011; Parreñas, 2011; Steinfatt, 2002; Takeyama, 2016; Trotter, 2008; Tsang, 2019; Weitzer, 2023b; Wijngaarden, 1999; Zheng, 2009）。ホステスおよびホストクラブは、客と若く魅力的な従業員との二者間または集団での相互行為を中心に構成されている。出演者（ワーカー）と客は会話し、飲み、触れ合い、そして——カラオケ型クラブでは——踊ったり歌ったりする。ホステス／ホストクラブは肉体的接触の機会に関しても幅があり、店内での売春を許可したり禁止したり、また従業員が客と有償の外出（同伴）に行くことを認めたりする場合がある。ゴーゴー・バーやビアバーでは、従業員が性行為のために店外に出ることを通常は奨励しており、その際には“小額の料金”（バー・ファイン）が支払われる。一方、提供者自身は、店外で客と過ごす時間に対して別の料金を受け取るが、その料金は性行為の有無に関わらず発生する。

この種のバーは厳格に組織化されていることが多く、特有の「儀礼的連鎖 (ritual chain)」に基づいて運営されている (Collins, 2005)。この連鎖の主要な段階は、誘惑 (enticement) → 求愛 (courting) → デート (dating) である (Weitzer, 2023b)。ゴーゴーバーの客は、踊る“アイ・キャンディ”を眺めるだけで満足し、誘惑段階にとどまることを選ぶ場合もある。ホステスやダンサーは、そうした傍観者に自分を指名させ、「レディドリンク」をおごらせることで誘い、そこで求愛の一形態が生じる。バーの女性従業員と客は、この時間に会話し、冗談を言い合い、触れ合い、一緒に店を出て有償デートに行くかどうかを決める。類似の儀礼連鎖は、アジアのゴーゴーバーにも見られ、そこではセックスワーカーが男性で、観客が男性または女性である (Ferguson, 2014; Sanders-McDonagh, 2017; Takeyama, 2016; Wijngaarden, 1999)。また、主に異性愛男性が客層を占めるトランスジェンダー・バーでも同様である (Winter & King, 2011)。性別構成に加え、エロティックバーはアメニティ、内装、客の国籍や階層背景においても異なる (Hoang, 2015; Trotter, 2008; Tsang, 2019; Zheng, 2009)。しかし、誘惑を中心とした比較的一貫した“誘惑儀礼”を共有している。

エスコートには、明確な求愛 (courting) 段階が存在しない。客は、エスコート自身の広告やクライアントのレビューにもとづいてデートを予約するが、その前に相互行為があるわけではない。求愛が起こるとすれば、それはデートの最中であり、事前ではない。これに対して、エロティックバーでは、客が提供者を実際に目にし、その人格を判断することができ、同時にワーカーも、男性の態度や望ましさを観察し、強引・酩酊・その他問題のある客をふるい落とす時間を確保できる。タイのバーガール、ナンは私に「一緒に遊ぶことで、彼を試して、その心を見る時間ができる」と語った。

多くの客もまた、バー・セクターをより優れているとみなす。その理由はまさに、両者のあいだに情緒的な波長や GFE の可能性があるかどうかを確かめるための“求愛／査定 (vetting) 段階”が存在するからである。アジアのセックスワークに関するオンライン・フォーラムに寄せられたコメ

ントは、バー客の論理をよく示している。¹⁴⁾ ある投稿者はこう述べる。「バーなら、彼女の身体を見て、事前にケミストリーを感じ取ることができるという利点がある」。別の投稿者は、「事前にやり取りもできない未知の〔エスコート〕が来るリスクをなぜ取るのか。先に交流できるバーがいくらかでもあるのに」と疑問を呈する。さらに三人目はこう言う。

「ゴーゴーなら、何が手に入るのか分かるし、彼女とのラポールを築く時間もある。とても可愛い子でも、性格が好きになれなかったり、こちらと“合わなかった”という理由で、バー・ファインをしないと決めたことが何度もある」。¹⁵⁾

こうした見解は、アジアの売春宿とゴーゴーパーを比較した日本人客の声にも反映されている。「ゴーゴーパーには気楽で楽しい気持ちで行けるけど、売春宿に行くにはちょっと勇気がいる……。それに、話したり、女性を食事に連れ出したり、ちょっとしたデートみたいなことをしてからセックスするほうが面白い。いわば“仮想恋愛ゲーム”みたいなものだ。それが僕にはもっと面白い」(Yokota, 2006:124 からの引用)。

しかし、これらのバーにはさらに際立った特徴がある。第一に、求愛段階は相性を見極めるために重要だが、求愛とデートが組み合わさったこのプロセスは、より広い“道徳的”機能を果たしている。それは、参加者がデートの経済的基盤を意識からいったん外すことを可能にする点である。フォーラムの利用者がバーでのデートを語るとき、彼らは物質的な取引ではなく、自分の感情や——性的・ロマンチックなものを含む——一緒に行った活動に焦点を当てる傾向がある。¹⁶⁾ ここで重要なのは、性的接触がバーの外、住宅やホテルといった私的空間で行われるという事実である。私的空間での接触は、当事者が「デート」をしているという印象を強化する。それは、エスコートとバーでの外出に固有の“リブランディング”である。

第二に、これらのバーは娯楽を提供する。ホステスクラブの多くではカラオケが定番である。ビアバーには、ビリヤード台、ダーツやボードゲーム、ライブ音楽、テレビ放映されるスポーツが混在し、ゴーゴーパーはステージ・パフォーマンスと、飲みながらの軽いパーティー的な戯れを中心に構成されている。クラシック型売春宿や、客に同行して食事やショーに行くエスコートを除けば、レクリエーションはこれらのバーをほかの売春セクターと明確に区別する要素である(クラシック型売春宿もレクリエーションの存在によって特徴づけられることを思い出されたい)。私は、売春とレクリエーション／娯楽を結びつけることが、取引的側面を覆い隠し、当事者が自らの性的逸脱を合理化し、否認しやすくするのだと主張する。

こうした娯楽空間における親密で賑やかな雰囲気は、第三の重要な特徴を浮き彫りにする——これらのバーが共同的な場であるという点である。そこでは、他者が「逸脱的」行為を楽しんでいる様子が観察される。東南アジアのバーが密集する歓楽街では、こうした逸脱は、その地域を「大人のディズニーランド」や「退廃の魔法のワンダーランド」と呼ぶことで和らげられる。¹⁷⁾ バー

14) 14

15) 15

16) 16

17) 17

の内部では、エミール・デュルケーム (1915) が宗教儀礼の中に見いだした祝祭的な「集合的沸騰 (collective effervescence)」がはっきりと感じられ、そこでは当事者たちの内集団としてのアイデンティティと共有された信念が、目に見えるかたちで肯定される。この共同性は逸脱の場において強力に働き、凡俗なものを聖なるものへと変換する可能性がある (Collins, 2005:17)。バンコクのエロティックバーについて、ある客はこう述べている。「そこには独自の雰囲気、感覚、感情を呼び起こす全体的な文化がある。ほとんど宗教みたいなもので、僕のようにハマった男は、まるで教会に通うように、人生の残りをゴーゴーバーで過ごすだろう。ゴーゴーバーはスピリチュアルなものなんだ」。¹⁸⁾ 別のフォーラム参加者によるタイの売春に関する記述は、バー・モデルにとくに関係が深い。

「周囲のすべての人が、罪悪感のかけらもなく楽しげに何かをしていると、それが新しい“普通”になる。……まわりのみんながリラックスして幸せそうにセックスに金を払っているのを見ると、解放感が生まれる。というのも、自分の国で売春者と一緒にいるときに感じるかもしれない罪悪感や気恥ずかしさが、そこにはないからだ」。¹⁹⁾

このダイナミクスは、犯罪学の主要理論の一つにも関係づけることができる。分別的接触理論 (differential-association theory) は、仲間からの支援が、違法行為への関与とその正当化を促進すると主張する。この理論は、仲間の支援と結びつくことで、当事者が自らの逸脱を正常化しやすくなる四つの要因を特定する。それは優先性 (priority)、期間 (duration)、頻度 (frequency)、強度 (intensity) である。人生の早い段階で当該行為に関与しはじめ (優先性)、長期間にわたって (期間)、繰り返し (頻度)、熱心に (強度) 行う者ほど、自分自身および共同行為者の行為を脱スティグマ化しやすい (Sutherland, 1947; cf. Cressey, 1960; Warr, 2002)。特定の集団と関わり、それを頻繁かつ熱心に行うことによって、当事者は自らの違法行為に対する一連の態度・動機・正当化を学ぶのである。

あらためて言えば、何らかの共同的パーティーを提供するクラシック型売春宿を別にすれば、「共犯者 (partners in crime)」の存在こそがバーを他のセクターと区別している。接触が私的で二者間に限定されるセクターには、定義上、同伴者が存在せず、その存在によって生まれる「新たな通常性 (new normality)」も生じない。

本稿で扱った売春の種類のうち、取引行為のリブランディングに必要な上記三条件をすべて満たすのは、ここで述べたバーのみであると私は主張する。そしてこれは、客だけでなく、バーで働く側にも同様に当てはまる。すでに述べたように、セックスワーカーは世界中でセクター間の区別を行い、自分の働き方を他セクターに比べて有利なものとして語る傾向がある。私がアジアの複数のバー・ワーカーと会話した際、ストリート売春は「無情 (heartless)」だと述べられ、マッサージ店で働くことはバーの“エンターテイナー”としての仕事と対照された。また、ゴーゴーバーは「売春宿ではなくキャバレー」だと定義された。あるビアバーのワーカーは、マッサージ店や売春宿での仕事を「退屈 (boring)」と表現した一方で、観光客を相手にする自分の仕事のいちばん良いところは、「外国人男性と知り合えること」であり、それが「他国について学ぶ」助けになると語った。

18) 18

19) 19

以前タイでエスコートや売春宿で働いたことのあるバーガールは、三つの職場を次のように対比した。

「売春宿では、客のほとんどは話よりセックスを求めている。話をしても、長い付き合いの客でないかぎり単純な内容になる。エスコートは私にとってもっと刺激的だったけれど、ホテルに着くまで相手の客を見ることができなかった。バーが好きなのは、隣に座る男性のを知ることができるし、ファラン〔西洋人男性〕との〔有償デートの〕外出が好きだから。彼らの中には、私をガールフレンドのように扱ってくれる人もいる」。²⁰⁾

バーのワーカーとその客は、有償デートを「パーティーをする」「バーから“外に出る”」といった語で脱商品化して語る。タイで私が話したある男性は、「ここで女の子をバーから連れ出すのは、とても自然に感じる」と言った。別の男性は、「相手の女性がプロではないという“幻想のファンタジー”」が好きだと言い²¹⁾、さらに三人目は、バー・ワーカーの主体性ゆえにバーを売春宿より優れていると考えていた。

「バーガールがあなたと行くかどうかを自分で選べるという点こそが、僕自身——そして多くの“パンサー (punters)” もそうだと思うけど——が、地球の裏側まで飛んで、タイ式の P4P [pay for play] を味わいに行く大きな理由なんだ！ ただ売春宿に行って、女性を選んで、やって、帰るだけがしたいなら、わざわざ海外へは行かず自国でやればいい。タイのバーで女の子に声をかけて、お金だけじゃなくて、ちょっと頑張って彼女を“連れ出す”必要があるかもしれない——その可能性こそが、狩りのスリル、あるいはそう呼んでいいなら“幻想”を生み出すんだ」。²²⁾

バーガールとの経験について、別の客は次のように述べている。

「売春者と一緒にいる感じがしない……。僕の経験のほとんどでは、急かされることもなく、たくさんの愛情があり、満足のいくセックスと素晴らしい衛生状態があった……。また、長年のあいだに気づいたのは、特定の女の子の常連になると、実際にあなたを理解し、つながりをもってくれる本当の友だちのような存在を得られることがある、ということだ」。²³⁾

タイにいる 141 人の西洋人男性を対象とした調査では、45%が、3 回以上デートしたバーガールに対して恋愛感情を抱くようになり、その関係が終わったときに辛さを感じたと回答している (Steinfatt, 2002:309)。残りの回答者は、非人格的なセックス以上のものに関心があるかどうかでさまざまだったが、重要なのは、バーでのデートが他の売春セクターよりも GFE、さらには継続的なロマンスの可能性を大きく提供するという点である。そして、このような関係から結婚に至る例も珍しくない (Lapanun, 2019; Thompson et al., 2016)。

20) 20

21) 21

22) 22

23) 23

本稿の理論モデルは表2にまとめられている。

表2 参加者による売春の正常化の前提条件 (Weitzer 2024)

セクター	前提条件1 (共同性)	前提条件2 (娯楽/ レクリエーション)	前提条件3 (情緒的 可能性)	結果 (正常化の可 能性)
ストリート	一部のワー カー間	なし	非常に低い	非常に低い
売春宿	ワーカー間	クラシック型売春宿 ではあり	中程度～低い：(ク ラシック型では中 程度)	中程度 (クラシッ ク型売春宿)
マッサージ 店	ワーカー間	なし	低い	非常に低い
ウィンドウ	なし	なし	非常に低い	非常に低い
エスコート	なし	なし	中程度～高い	中程度
バー	すべての参 加者間	あり	高～中程度	高い

6 結論

本稿の冒頭で提示した古典的定式化に見られる欠陥のある一枚岩的な主張を別にすれば、セックスワークに関する学術文献の大半は、セクター特有であり、かつ理論的枠組みに乏しい。本稿では、実証研究の蓄積にもとづき、ポリモーファス・パラダイムの指針を受けながら、主要な売春セクターを体系的に比較することで重要な理論的洞察が得られると論じてきた。

セクター横断的な普遍性（客の管理、スティグマへの対処など）が存在するとはいえ、各セクターは主要な変数において異なる——標準的な業務ルーティン、職業的リスク、可視性、地域社会への影響、そして広範な世論である。さらに、各セクターは、参加者の日常的経験および性的取引への関与に付与される意味においても大きく異なる。私は、参加者あいだの情緒的結びつきの生起可能性は、売春のタイプによって異なることを示した。

一般的に、エスコートとバー・ワーカーにとって情緒的関係は標準的レパトリーの一部である。それは、彼女／彼らが客と長時間を共にし、その接触が通常のデートの模造体（ファクシミリ）と化しているためである。しかし、エスコートには求愛 (courting) 段階が欠けており、これはバーの参加者にとって重要なステップ——すなわち、お互いに会話し、査定し、「ある程度のケミストリーがあるか」を判断するための時間——である。マッサージ店、標準的売春宿、初歩的売春宿では、時間的制約、社交の機会の欠如、そして当事者双方の功利的関心のために、情緒的結びつきの可能性は低くなる。そして、ストリートでの短時間の取引では、情緒的結びつきは典型的に存在しない。

私は、情緒的結びつきと逸脱否認の可能性を高める要因がさらに二つあると論じてきた。すなわち、そのセクターはレクリエーションや娯楽を提供するか。そして、それは共同的な場であり、集合的沸騰 (collective effervescence)・集团的連帯・逸脱否認と正当化へと向かう分別的接触 (differential association) を促進するか、である。もちろん、脱商品化と正常化には明白な限界がある——金銭が交換され、あらゆる形態の売春が広くスティグマ化され、しばしば違法とされているためである。しかし、上で示した証拠が示すように、潜在的に高い水準でこの三つの基準すべてを満たす売春形態が一つ存在する。すなわちバー・セクターである。バーは、単なる取引的セックス以上のものを提供し、その独自の共同性・娯楽性・情緒的特徴によって、参加者がスティグマを希釈し、この種の官能的取引を他のどの売春形態より大きく“リブランディング”することを可能にしている。

参考文献

- Aalbers, M. (2005). Big sister is watching you: Gender interaction and the unwritten rules of the Amsterdam red-light district. *Journal of Sex Research*, 42, 54–62.
- Allison, A. (1994). *Nightwork: Sexuality, pleasure, and corporate masculinity in a Tokyo hostess club*. University of Chicago Press.
- Bernstein, E. (2007). *Temporarily yours: Intimacy, authenticity, and the commerce of sex*. University of Chicago Press.
- Brents, B., Jackson, C., & Hausbeck, K. (2010). *The state of sex: Tourism, sex, and sin in the new American heartland*. Routledge.
- Bryant, C., & Palmer, C. (1975). “Massage parlors and ‘hand whores.’” *Journal of Sex Research*, 11, 227–241.
- Carbonero, M., & Garrido, M. (2018). “Being like your girlfriend: Authenticity and the shifting borders of intimacy in sex work”. *Sociology*, 52, 384–399.
- Chin, J., & Takahashi, L. (2023). “Illicit massage parlors”. In R. Weitzer (Ed.), *Sex for sale* (3rd ed.). Routledge.
- Cohen, B. (1980). *Deviant street networks: Prostitution in New York City*. Lexington.
- Collins, R. (2005). *Interaction ritual chains*. Princeton University Press.
- Comack, E., & Seshia, M. (2010). “Bad dates and street hassles: Violence in the Winnipeg street sex trade”. *Canadian Journal of Crime and Criminal Justice*, 52, 203–214.
- Cressey, D. (1960). “A theory of differential association”. *Social Problems*, 8, 2–6.
- Davis, K. (1937). “The sociology of prostitution”. *American Sociological Review*, 2, 744–755.
- Dewey, S. (2023). “Selling sex on the streets”. In R. Weitzer (Ed.), *Sex for sale* (3rd ed.). Routledge.
- Durkheim, E. (1915). *The elementary forms of religious life*. George Allen & Unwin.
- Durkin, K., & Bucklin, A. (2000). “Deviance avowal and disavowal”. *Encyclopedia of criminology and deviant behavior* (Vol. 1). Routledge.
- Earle, S., & Sharp, K. (2007). *Sex in cyberspace: Men who pay for sex*. Ashgate.
- Edlund, L., & Korn, E. (2002). “A theory of prostitution”. *Journal of Political Economy*, 110, 181–214.
- Engels, F. (1909). *The origin of the family, private property, and the state*. Charles Kerr.
- Ferguson, J. (2014). “Sexual systems of highland Burma/Thailand: Sex and gender perceptions of and from Shan male sex workers in Northern Thailand”. *South-East Asia Research*, 22, 23–38.
- Gutiérrez Garza, A. (2022). “The intimacy of the gift in the economy of sex work”. *American Anthropologist*, 124, 767–777.

- Hail-Jares, K., & Oselin, S. (2022). "It's not just sex: Relational dynamics between street-based sex workers and their regular customers". *Work, Employment, and Society*, 36, 893–910.
- Harcourt, C. (2010). "The decriminalization of prostitution is associated with better coverage of health promotion programs for sex workers". *Australian and New Zealand Journal of Public Health*, 34, 482–486.
- Harcourt, C., & Donovan, B. (2005). "The many faces of sex work". *Sexually Transmitted Infections*, 81, 201–206.
- HHS. (2009). *Other populations at risk for trafficking: Runaway and homeless youth*. U.S. Department of Health and Human Services.
- Hoang, K. (2015). *Dealing in desire*. University of California Press.
- Hoefinger, H. (2011). "Professional girlfriends: An ethnography of sexuality, solidarity, and subculture in Cambodia". *Cultural Studies*, 25, 244–266.
- Høigård, C., & Finstad, L. (1986). *Backstreets: Prostitution, money, and love*. Polity.
- Jolin, A. (1994). "On the backs of working prostitutes: Feminist theory and prostitution policy". *Crime & Delinquency*, 40, 69–83.
- Kaptein, M., & van Helvoort, M. (2019). "A model of neutralization techniques". *Deviant Behavior*, 40, 1260–1285.
- Kingston, S. (2014). *Prostitution in the community: Attitudes, action, and resistance*. Routledge.
- Koken, J., & Bimbi, D. (2023). "Comparing male and female escorts". In R. Weitzer (Ed.), *Sex for sale* (3rd ed.). Routledge.
- Lapanun, P. (2019). *Love, money, and obligation: Transnational marriage in a northeastern Thai village*. National University of Singapore Press.
- Lever, J., & Dolnick, D. (2010). "Call girls and street prostitutes: Selling sex and intimacy". In R. Weitzer (Ed.), *Sex for sale* (2nd ed.). Routledge.
- Love, R. (2015). "Street level prostitution: A systematic literature review". *Issues in Mental Health Nursing*, 36, 568–576.
- McKeganey, N., & Barnard, M. (1996). *Sex work on the streets*. Open University Press.
- Milrod, C., & Monto, M. (2012). "The hobbyist and the girlfriend experience: Behaviors and preferences of male customers of internet sexual service providers". *Deviant Behavior*, 33, 792–810.
- Milrod, C., & Weitzer, R. (2012). "The intimacy prism: Emotion management among the clients of escorts". *Men & Masculinities*, 15, 447–467.
- Nelson, A., Korgan, K., Izzo, A., & Bessen, S. (2020). "Client desires and the price of seduction: Exploring the relationship between independent escorts' marketing and rates". *Journal of Sex Research*, 57, 664–680.
- O'Neill, M., & Campbell, R. (2006). "Street sex work and local communities". In R. Campbell & M. O'Neill (Eds.), *Sex work now*. Willan.
- Parreñas, R. (2011). *Illicit flirtations: Labor, migration, and sex trafficking in Tokyo*. Stanford University Press.
- Peat, Marwick, & Partners. (1984). *A national population study of prostitution and pornography*. Canadian Department of Justice.
- Perkins, R., & Lovejoy, F. (2007). *Call girls: Private sex workers in Australia*. University of Western Australia Press.
- Sanders, T., O'Neill, M., & Pitcher, J. (2018). *Prostitution: Sex work, policy, and politics*. Sage.
- Sanders-McDonagh, E. (2017). *Women and sex tourism landscapes*. Routledge.
- Scott, M., & Dedel, K. (2006). *Street prostitution*. Department of Justice.
- Shdaimah, C., Kaufman, B., Bright, C., & Flower, S. (2014). "Neighborhood assessment of prostitution as a pressing social problem and appropriate responses". *Criminal Justice Policy Review*, 25, 275–298.
- Simmel, G. (1900/2004). *The philosophy of money*. Routledge.

- Simmons, M. (1998). "Theorizing prostitution: The question of agency". *Sexuality & Culture*, 2, 125–148.
- Ślęzak, I. (2019). *Social construction of sex work: Ethnography of escort agencies in Poland*. Jagiellonian University Press.
- Staiger, A. (2022). *Legalized prostitution in Germany: Inside the new mega brothels*. Indiana University Press.
- Steinfatt, T. (2002). *Working at the bar: Sex work and health communication in Thailand*. Ablex.
- Sutherland, E. (1947). *Principles of criminology*. Lippincott.
- Sykes, G., & Matza, D. (1957). "Techniques of neutralization: A theory of delinquency". *American Sociological Review*, 22, 664–670.
- Symanski, R. (1981). *The immoral landscape: Female prostitution in western societies*. Butterworths.
- Takeyama, A. (2016). *Staged seduction: Selling dreams in a Tokyo host club*. Stanford University Press.
- Thompson, E., Kitiarsa, P., & Smutkupt, S. (2016). "From sex tourist to son-in-law". *Current Anthropology*, 57, 53–71.
- Toubiana, M., & Ruebottom, T. (2022). "Stigma hierarchies: The internal dynamics of stigmatization in the sex work occupation". *Administrative Science Quarterly*, 67, 515–552.
- Trotter, H. (2008). *Sugar girls and seamen: A journey into the world of dockside prostitution in South Africa*. Jacana.
- Tsang, E. (2019). "Real men get the best bar girls: Performing masculinities in China's global sex industry". *Deviant Behavior*, 40, 559–573.
- Velarde, A., & Warlick, M. (1973). "Massage parlors: The sensuality business". *Society*, 2, 63–74.
- Waller, W. (1937). "The rating and dating complex". *American Sociological Review*, 2, 727–734.
- Warr, M. (2002). *Companions in crime: The social aspects of criminal conduct*. Cambridge University Press.
- Weitzer, R. (2009). "Sociology of sex work". *Annual Review of Sociology*, 35, 213–234.
- Weitzer, R. (2012). *Legalizing prostitution: From illicit vice to lawful business*. New York University Press.
- Weitzer, R. (2014). "The social ecology of red-light districts: A comparison of Antwerp and Brussels". *Urban Affairs Review*, 50, 702–730.
- Weitzer, R. (2023a). "Sex work: Types and paradigms". In R. Weitzer (Ed.), *Sex for sale* (3rd ed.). Routledge.
- Weitzer, R. (2023b). *Sex tourism in Thailand: Inside Asia's premier erotic playground*. New York University Press.
- Wijngaarden, J. (1999). "Between money, morality, and masculinity: Bar-based male sex work in Chiang Mai". *Journal of Gay & Lesbian Social Services*, 9, 193–218.
- Winter, S., & King, M. (2011). "Well and truly fucked: Transwomen, stigma, sex work, and sexual health in South to East Asia". In R. Dalla (Ed.), *Global perspectives on prostitution and sex trafficking*. Lexington.
- Yokota, F. (2006). "Sex behavior of male Japanese tourists in Bangkok, Thailand". *Culture, Health, and Sexuality*, 8, 115–131.
- Zelizer, V. (2005). *The purchase of intimacy*. Princeton University Press.
- Zheng, T. (2009). *Red lights: The lives of sex workers in postsocialist China*. University of Minnesota Press.